

第3分科会 「海域技術」 ～海と地域を結ぶインターフェイス技術

基調講演



北海道大学 佐伯 浩 副学長

●講演要旨

第3分科会は、初めに北方海域技術研究会の谷野賢二会長より「北海道の基幹産業である水産業に焦点を当て、水産業の振興に寄与する技術を深め、北海道を活性化する方策を提案すること」が本分科会の目的であることが紹介され開会した。続く、北海道大学の佐伯浩副学長の基調講演では、①漁業者等の当事者が自らの努力で生き残る意思が必要であるが、一方支えとして技術士の専門技術者の支援が必要不可欠であること、②水産資源—生産者—消費者を取り持つ技術、いわゆるインターフェイス技術が非常に重要であること、③インターフェイス技術の実行には、最終目標を常に意識しながら仕事を行う必要があり、インタラクティブ的思考が不可欠であることが強調された。その後、北方海域技術研究会会長 谷野賢二氏、同幹事長 鳴海日出人氏、南茅部町水産林商課水産係長 芝井穰氏、(株)グローバルフィッシュ代表取締役社長 柿澤克樹氏、北方海域技術研究会相談役 長野章氏により以下の講演が行われた。

・谷野氏「浜と食卓を結ぶインターフェイス技術」

環境保全・創造技術として、自然調和型構造物の紹介。技術の向上のためには、資源と生産者の視点が重要である。

・鳴海氏「豊かな浜づくりのためのインターフェイス技術」

現場のニーズと技術者のシーズの合致が重要。事業採択は、漁業者が選択できる仕組みが必要である。

・芝井氏「生産現場に応える技術提供」

コンブ養殖技術の紹介。「どんなに素晴らしい技術でも現場に貢献する技術でなければ意味がない」という長谷川博士の言葉の紹介が印象的であった。

・柿澤氏「水産物流通の現状と課題」

産地、消費地の情報システムの構築・技術革新・生産効率の改善が重要（ほしい物を、ほしい人に、ほしい時に）。

・長野氏「水産基本計画と地域・技術のインターフェイス」

地域において新しい産業、付加価値を含んだ付加価値間の新たな相互関係構築が重要で、それらを実現するための要素技術の展開が必要である。



講演風景



会場風景



会場風景

パネルディスカッション



討論風景



第3分科会コーディネーター 谷野賢二 技術士

●パネルディスカッション要旨

パネルディスカッションは、谷野会長をコーディネーターとし、先に講演を頂いた4名の講演者をパネリストとして迎え、①水産業の現状と必要な技術について、②インタラクティブな技術開発と実現させるための方策、③まとめの順で活発な議論が交わされた。

・水産業の現状と必要な技術について

芝井氏からは、水産業においては基幹基地となる漁港の役割が大きいことや、HACCP 対応など漁港の衛生管理体制の確立が急務であること、鳴海氏からはニーズとシーズの合致の重要性、つくり育てる漁業を根付かせる漁業者の意識改革が重要であること、柿澤氏からはトレーサビリティや高度な冷凍保存技術などのシーズを熟知したさまざまな製品開発の有効性、長野氏からはITを活用するためには地域の参画の仕組みが必要であることが示された。

・インタラクティブな技術開発を実現させるための方策

芝井氏からは、漁業者の努力の結果が価格に反映される手法の検討の必要性、柿澤氏からは人と人を結ぶアナログ的なコミュニケーションが現在でも重要であること、鳴海氏からは技術士が浜に歩みよる姿勢が重要であること、長野氏からは最終的には技術士が地域と密に交流を図り実学的行動をとることが最も重要であることが示された。

パネルディスカッションは、谷野会長より持続的な水産業と漁村の発展のために技術士を含めインタラクティブな行動が必要であると締めくくられた。

●まとめ

本分科会報告では、漁業の持続的な発展のためにはインタラクティブな思考と行動を技術士が実行することこそ、新の社会貢献につながるということがまとめられた。

[追記]分科会報告の後、特別報告として9月8日に来襲した台風18号の北海道日本海の被害状況について、本分科会の斉藤幹事より報告を行ったことを追記致します。



パネリスト 公立はこだて未来大学 長野 章 教授



パネリスト 鳴海日出人 技術士



パネリスト 株式会社グローバルフィッシュ 柿澤克樹 氏



パネリスト 南茅部町 芝井 穰 氏